

2016 年 11 月 25 日（金）～11 月 28 日（日）	
震災・復興とリスクマネジメント（　○　）国際都市神戸と世界の文化（　　）提言：国際紛争・対立から平和・協調へ（　　）グローバルサイエンスと拠点都市神戸（　　）その他（　　）	
「世界津波の日」　高校生サミット in 黒潮	
High School Students Summit on “World Tsunami Awareness Day” in Kuroshio	
[概要]	
1.　開催趣旨	
津波の脅威と対策への国際的な意識向上を目的に、日本が提唱し日本を含む世界　142 カ国が共同提案を行った、11　月　5　日を国連の共通記念日である「世界津波の日」とすることについて、2015　年 12　月、国連総会委員会において全会一致で採択されました。	
日本では、すでに 11　月　5　日を「津波防災の日」として定めています。これは、1854　年旧暦 11　月　5　日に起きた安政南海地震の際、和歌山県広川町の庄屋だった浜口梧陵（はまぐち　ごりょう）が、稲わらに火をつけ、村人を高台に導いて大津波から命を救った逸話「稲むらの火」に由来しています。	
このたび、「世界津波の日」の啓発イベントとして、青少年による国際会議「世界津波の日」　高校生サミットを、高知県黒潮町において開催します。	
高知県黒潮町は、南海トラフ地震による国の被害想定において、津波高 34　メートルという国内一の想定を受けた町です。その想定後黒潮町では、地震津波で一人の犠牲者も出さないことを理念に、防災インフラ整備、防災教育、防災産業の創出など、様々な取り組みを進めています。	
地震津波は多くの人命を奪い、甚大な被害をもたらす各国共通の課題です。今回の高校生サミットは、防災の知見と地震津波の脅威を伝え、必要な防災、減災、迅速な復旧復興、国際連携に資する施策を総合的かつ計画的に実行することで、地震津波から国民の生命、身体、財産の保護、国民生活及び国民経済に及ぼす影響を最小化できる、国土強靱化を担う将来のリーダーを育成することを目的に開催します。	
2.　目的	
仙台交流プログラムの活動の一環として、「世界津波の日」高校生サミットに参加し、	
(1)　DR3 活動の紹介と報告を英語により実施する	
(2)　海外の高校生と交流することを通して、他国の自然災害について学ぶ	
(3)　震災の記憶をどのように後世に伝えていくかを共に考える	
(4)　参加を通して、防災意識を向上させる	
ことを主たる目的とする。	
3.　主たる会場	
土佐西南大規模公園	
4.　スケジュール	

世界津波の日 高校生サミット in 黒潮											
タイムテーブル											
11月25日（金）											
開会式											
16:20 ～ 16:30			オープニング映像（参加国紹介映像を含む）								
16:30 ～ 16:35			開会宣言（高校生議長）								
16:35 ～ 16:45			主催者あいさつ・開催趣旨説明（町長）								
16:45 ～ 17:00			プログラム説明								
17:00 ～ 17:30			OECD東北スクール発表								
17:30 ～ 17:50			分科会のためのブリーフィング①（分科会グループ別に実施）（自己紹介）								
17:50 ～ 18:15			分科会のためのブリーフィング②（分科会グループ別に実施）								
11月26日（土）											
分科会（フィールドワーク含む）											
8:05 ～ 8:35			安政津波の碑→津波避難タワー								
9:15 ～ 9:30			フィールドワーク 高台避難訓練説明								
9:30 ～ 9:50			避難所への避難訓練								
9:50 ～ 10:05			避難場所の説明 海への雄叫び								
10:25 ～ 12:25			分科会								
13:40 ～ 14:10			記念植樹＆全体記念撮影 記念撮影は大方あかつき館屋上から行う								
総会											
15:00 ～ 15:05			総会開会宣言（高校生議長）								
15:05 ～ 15:25			主催者（知事）挨拶 来賓挨拶								
15:27 ～ 15:52			東日本大震災被災地からの報告								
16:05 ～ 17:05			分科会報告								
17:05 ～ 17:10			宣言採択								
17:10 ～ 17:20			閉会宣言（高校生議長）								



会場の最寄り駅の土佐入野駅にて



さっそく取材を受けました



会場のようす



翌日の分科会発表の練習中です



多くの黒潮町の方々が歓迎してくれました



早速海外の高校生と交流です



一致団結して発表に臨みます



夜も宿舎で打ち合わせと練習です



津波避難タワーに登りました



シンガポールの先生に海外の防災について聞いています



山の上に避難訓練をしました



山から雄叫びです



分科会での発表です



まずはリーダーが発表します



続いてメンバーの発表です



ディスカッション中です



チーム内で共有しています



記念植樹をしました



フェアウェルパーティー



フェアウェルパーティー



フェアウェルパーティー

(生徒の感想・所感)

5 年生・I くん

このプログラムを通して、私は他校との交流の意義や意味を感じました。これまでに本校は他校との交流を行ってきましたが私自身は積極的に話しかけることができず、お互いに意見交換を行うことが出来ていませんでした。そんななかこのプログラムに参加して思いきって話しかけてみると、日本語、英語問わず話すことが楽しく、また、より様々な考え方を見つけることができました。特に英語は自分の言いたいことが伝わって会話できた瞬間の充実感や達成感を味わうことができ、とても有意義なものであつと思いました。このプログラムで私たちは 2 つのアクションプランを提案しました。1 つは減災アクションカードゲームをその地域に合わせて(現地化して)実施すること、そしてもう 1 つは近隣の他校と交流することです。私たちは自分たちが提案したアクションプランをまずは自分たちがもっと積極的に行っていくことが必要だと思っています。これからはこのような活動を増やしていきたいと考えています。

4 年生・T さん

分科会でのアクションプランの共有、ディスカッションが最も印象に残っています。例えば、自国で地震が起こらないが、アクションプランを考えている国の意見は本当に新鮮で、今まで見えていなかった部分も浮き彫りになり、視点が広がりました。他国の友人ができる。これが世界津波サミットに私が参加した大きな成果でした。互いの国の災害に対する知識を持ち、もし災害が起こった時助け合うことが出来るからです。東日本大震災の時、たくさんの外国の方が日本に対して手を差し伸べてくれました。世界との結びつきは防災、減災、復興の視点においてすべてに有用的であると言えます。自分たちがその結びつきの架け橋となることで自分たちから周りの人に、人から人へ一つの輪ができます。また、今回津波サミットに参加して、言語の壁は超えることが出来ると確信しました。英語で訴えるのは、確かに難しいことです。でも、伝えようとする気持ちがあれば相手は分かってくれる。ディスカッションをする際、自分たちが訴えたかったことが上手く英語にできませんでした。それでも、向かい側に座っていたマレーシアの子が「こういうことですか？」と逆に質問してきてくれたり、頷きながら話を聞いてくれたりして、私たちは伝えることが出来ました。言語の壁を超えることができた、この瞬間を私は今でも忘れられません。未知のことを国関係なしに、模索する。フィールドワークであつた、避難訓練の形式は私も、外国人もはじめてでした。どのように感じたかと聞くと、「自分たちの国では火災に対する避難訓練を年に 2 回しかしないので、このような形式の避難訓練ははじめてだった。命を守るために必死に助け合う姿が避難訓練にはあつて、すごいと思った。」と言っていました。当たり前のように日本ではどこの学校でも避難訓練をしますが、それが非日常的なことである国が多く存在していて、私たちが彼らに身を守るために伝えられることがそこにはたくさんあるのだと新たな気づきを得ました。災害時に向けた対応を私たち高校生が一緒になって考えることで、よりリスクが軽減すると考えます。それだけでなく、そこにはたくさんの意味があつて互いに大きな学びとなったと考えています。参加してよかった。心からそう思います。